

原発ゼロをめざす

福井で市民行進

「福島とともに歩もう」「若狭に新しい雇用を増やそう」。原発ゼロをめざす市民行進が11日、福井市で取り組まれました。東京電力福島第1原発事故が発生した2011年に原発問題住民運動福井県連絡会の呼びかけで開始され、毎月定例で続けて今回が66回目。会代表委員の佐藤正雄（日本共産党）が出発前の集会で避難計画の問題を報告し、国と県の見解の相違点を指摘。関西電力高浜原発事故の避難の際、

被ばくの検査・除染場所が発生する汚染水や汚染物の扱いをめぐって、内閣府が「福井県内の関西電力施設に移送し、保管する」としているのに対し、県は「決まっているのは原子力事業者が処理するということまで」としています。佐藤県議は「こんな、あいまいなことは許されない。原発再稼働を進めることは論外」と訴えました。

参加者らはシュプレヒコールを行いながら、県庁周りを行進しました。

福井市の男性（75）

岐阜でパレード

岐阜県各務原市で11日、さよなら原発集会



パレードに出発する参加者＝11日、岐阜県各務原市

は「福島島の切り捨ては絶対に許せない」と語気を強めました。

パレードが行われ、120人が参加しました。さよなら原発・各務原と岐阜が共催。各務原代表代行の水野香織さん（45）は「毎週金曜の原発ゼロ行動

は230回。われわれはあきらめず廃炉まで続ける」とあいさつ。市民ネット岐阜の兼松秀代代表も「風船実験でも岐阜は放射能被害地だ。老朽原発は廃炉にしよう」と訴え、フリートークでも「安倍政権が続く限り原発は止まらない。市民と野党の共闘で政治を変えよう」と続きました。

参加者は市内を「原発なくして自然を守ろう」「海を汚すな汚染水」とシュプレヒコールしながらパレードしました。

60代の女性は「原発は安いというけど、損害賠償や除染で21兆円超える。税金や電気料金の上乗せはやめてほしい」と怒りました。